



美杉中学校だより

みんなが幸せになれる学校
すすんで学び行動しよう
ぎぶあっぴしない

第 15 号
令和4年10月31日発行
美杉中学校長
坂本 直哉

『狂言』を鑑賞しました ～萬(よろず)狂言～

10月26日(水)午後、美杉総合文化センターで『萬(よろず)狂言』を鑑賞しました。この事業は、文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業～巡回公演～」によるもので、日本古来より継がれてきた舞台芸術の一つである『狂言』を学び、ふれあう機会として行われています。

『萬狂言』とは、狂言方(がた)野村万蔵家一門の呼び名で、約300年の歴史と伝統を引き継ぎ、古くは加賀前田藩のお抱えでもありました。現在は、野村万蔵さんを中心に公演活動をはじめとし、全国の小中学校の鑑賞会やワークショップにも取り組んでみえます。



午前には、公演に先立って3年生全員で「すり足」でゆったりとした動きなど狂言の所作について直接指導していただきました。そうした指導のもと、生徒代表の三人が『狂言小舞「兎(うさぎ)」』の舞を披露して午後の公演が始まりました。野村万蔵家一門の小笠原さんと芸能事務所(マセキ芸能)の石本さん(トコソ)のお二人から狂言の解説をしていただきました。狂言は現代のコントや漫才などの笑いにつながる伝統的舞台芸術であることなど、お二人の楽しく、軽妙な語りによるナビゲートで、狂言について多くのことを教わりながら進めていただきました。



公演では、生徒たちが小学校の教科書でも学んだことのある『柿山伏(かきやまぶし)』・『附子(ぶす)』の2作を演じていただきました。わかりやすいナビゲートのおかげもあり、会場からは生徒の笑い声があふれていました。



柿山伏



附子

日本古来より伝承されてきた大衆が楽しんでいた『狂言』を身近に感じることでできた貴重な時間でした。生徒たちの感性に訴え、笑顔のあふれる機会をいただくことができました。

【食教育の授業】



同じ日の午前、各学年で『食教育』を行いました。「魚を上手に食べるために、魚の体のつくりを知ろう」という内容で美杉小学校の福島栄養教諭に授業を行っていただきました。年々、食卓の食材から魚が少なくなっていること、その原因として食べにくさがあるのではないかなどのお話がありました。

食べにくさを解消するためにも、「魚の体の構造を知っていれば、食べにくいところを取り除きながら上手に食べられるから」というアドバイスをいただいたあと、煮干しを使用して体の各部分ごとに取り分けていく作業を、実際に各自で行いました。目・心臓・胃などの内臓や背骨に取り分け、ワークシートに貼り付けました。「食べにくい部分のある場所を知っていることで、魚を食べる機会が増えていくと嬉しかったです。」と締めくくられました。

